

## 第2回 中央区高齢者孤立防止・生きがい推進懇談会 (議事録要旨・案)

日時： 平成27年6月4日(木) 午後6時30分～8時15分

場所： 中央区役所 8階 大会議室

議事次第：

1 開 会

2 議 題

(1) 現状把握と情報共有『閉じこもりと社会参加』

①高齢者の閉じこもりと健康

②男性高齢者の孤立防止と社会参加

(2) アンケート(案)の説明

(3) その他

3 閉 会

## 出席者【委員】

川村 岳人	健康科学大学健康科学部福祉心理学科准教授
高橋 恵子	聖路加国際大学研究センター准教授
鈴木 健一	中央区立敬老館統括館長
吉田 千晴	京橋おとしより相談センター管理者
八木 英之	社会福祉協議会在宅福祉サービス部推進課長
木村 和代	民生委員（京橋地域）
平賀 淳子	民生委員（日本橋地域）
立岩 絹子	民生委員（月島地域）
川端 武二	町会役員（京橋地域）
安西 暉之	町会役員（日本橋地域）
鹿島 新吾	町会役員（月島地域）
小倉 さなゑ	ほがらかサロン構成員
小川 京子	高齢者クラブ連合会役員
佐久間 保人	天空新聞製作委員会構成員
田中 武	企画部長
新治 満	区民部長
平林 治樹	福祉保健部長
長嶋 育夫	高齢者施策推進室長

(敬称略：順不同)

配布資料：

- 資料1 委員の活動内容と課題
- 資料2 高齢者の閉じこもりと健康
- 資料3 男性高齢者の孤立防止と社会参加
- 資料4 アンケートの概要
- 資料5 アンケート（案）
- 資料6 第1回中央区高齢者孤立防止・生きがい推進懇談会（議事録要旨・案）

次第	発言者	議事の状況又は発言内容
1 開会	高齢者福祉課長	これより第2回中央区高齢者孤立防止・生きがい推進懇談会を開催いたします。
2 議題	会長	議事に入ります。事務局からお願いします。
(1) 現状把握と情報共有『閉じこもりと社会参加』	高齢者福祉課長	配布資料の確認。
①高齢者の閉じこもりと健康	副会長	高齢者の閉じこもりと健康(資料2)について、副会長から説明。
②男性高齢者の孤立防止と社会参加	会長	男性高齢者の孤立防止と社会参加(資料3)について、会長から説明。
現状把握と情報共有	委員	高齢者にも、元気な方とそうでない方がいる。元気なうちは頑固な人が多い。
	会長	助け合いの必要を感じない人がいるのもある意味当然である。遠くから見守りつつ、支援が必要な時にアプローチできる余地を残しておくことが重要なのではないか。
	委員	いきいき館にいつの間にか来なくなってしまう方がいる。その理由は「なんとなく」が多い。今後は、来ていただいて友達をつくっていただき、その人の強みを発揮して、教わる側から教える側になっていただきたい。
	委員	何かあったらおとしより相談センターを思い出してもらえよう、広報誌を配布し、細く長く関係性をつなぐ。認知症サポーター養成講座を通してマンション管理組合や郵便局、企業などとの関係をつくって情報を集め、何かあったら対応できるように努めている。介護予防教室や介護者交流会等を通して健康状態や仕事・趣味などを把握し、社会参加の機会につなげる取り組みをしている。
	委員	高齢男性の参加率は低いと感じるが、中央区の高齢者人口の男女比は女性6、男性4ということ念頭に置く必要がある。来てもらう以外にも、こちらから出向いたり、モノを介してつながる仕掛けがあってもよい。出てこられない方へのアプローチや、高齢になる前から地域とのつながりをつくっておく予防という視点も大事だと思う。
	委員	社会とのつながりは、若いうちから育まなければならないと思

	う。また、いきいき館など、初心者でも気軽に参加できるようにすることが必要だと思う。
委員	地域の見守りやふれあいを続けたことで、一人暮らし高齢者が地域の行事や近所づきあいにも参加するようになった。これは一軒家に住んでいる人の例だが、地域の見守りやふれあいの大切さを実感した。マンションに住んでいる高齢者の見守りをどうしたらいいのか、悩んでいる。
委員	高齢夫婦のみ世帯の妻が脳梗塞で言語障害となり、外出できなくなった。訪問してお話をしようとしても、鍵を開けてもらえない。介護をしている夫とはお話しするが、女性も引きこもったら大変だと痛感している。
委員	高齢者自身が何かしたいと思った時、地域メディアに投稿したことで、社会との接点ができ、ボランティア活動などにつながっている。区の広報は新聞折込だが、新聞をとっている人は60%しかいない。高齢者に情報が伝わっていないのではないか。
委員	高齢者の見守りでは、病気をしていないか、防災の問題はないか、家事の援助が必要かといった点を確認している。ひとり暮らしの人は人と話ができないのが一番つらいので、話し相手になると喜ばれる。男性高齢者の特技を活かした活動の推進や、囲碁などの交流をすることが孤立防止になると思う。
委員	サロンの活動にあたり、利用者の心を開いてもらうために心掛けていることは、失敗することを恐れないということ。完璧すぎると逆に心を開きにくい。認知症の人は、来られなくなるというより来ることを忘れてしまう。本人は参加したい気持ちがあるのに、欠席が多く待機者もいるから辞退させるというのはいかかなものだろう、何かいい方法がないかと思う。地域の見守りでは、おとしより相談センターのことをもっと知って活用できるようになるとよい。
委員	高層マンションはセキュリティがあり、簡単には中に入れない。町会は普段の日でもいろいろな仕事があるので、若い人にやってもらうのは難しい。商店がなくなり、役員のなり手も少なくなった。災害時の要援護者支援についても、町会に入っている人と入っていない人のどちらを優先するのかなど、なかなか難しいことがある。
委員	いきいき館では、ずっと前から利用している人ががんばっている。新しい人が利用しにくいという話を聞く。

(2) アンケート（案）  
の説明

委員	現在、いきいき館では新しい登録者も増え、皆が公平に利用できるよう工夫しているので、ぜひご利用いただきたい。
委員	町内のことは住民が協力してくれないとできない。掃除なども、出てくる人は限られている。人を寄せることは難しい。
委員	30代から80代くらいまで幅広い年代層の飲み会がある。先ほど、出てこないならこちらから出向くという話が出たが、高層マンションで一人暮らしの方がいるので、町で飲むのをやめ、その方のところに出向いて飲むようになった。人とのつながりを大切にしている地域なので、声をかけたり、自宅をたずねたり、特技を活かして仕事をしてもらったり、孤独な人はあまり見当たらない。町とのつながり、普段のつながりが大事ではないか。
委員	2つの町会を1つにまとめたが、敬老会は一緒になっていない。やり方も全然違う。一緒にする方策はないか考えている。高齢者になると聴力が落ちるので話す声が大きくなる。喫茶店で、まわりに迷惑だからと注意したら怒って来なくなったという話を聞くと、身体的に劣ってきた人に対する若い人の思いやりは難しいのだろうかと思う。
会長	皆さんのお話を聞いて少しでもコメントをさせていただく。うまくいっている実践は、個々の方の強みを丁寧にみて、それにあった展開をしている。自分の強みを活かして社会参加をしたい人も多い。高齢者自身が「こういうことをやりたい」と提示したり、相談するような場があることは非常に重要である。一度つながった手を離さないで、その先につなげていく。民間の取組みだからこぞできるという意味でも示唆に富む話だった。また、特定の人の居場所になってしまい、他の人が入れないという話もあった。しかし、ボス的な存在のその人にとっては決して手放したくない重要な意味合いを持つ場とも言える。他の方には新たな居場所をつくったり、今の居場所、他の居場所に包摂するかなど、こういったことを検討する必要がある。それから、予防が大事である。高齢期に入る前、仕事をしている段階でどのように地域との接点を持っていただくか。男性の孤立防止というと、男性はお酒を介したつきあいに慣れているという面もあるので、飲み会といった取組みも再評価されるべきではないかと思った。
会長 高齢者福祉課長	アンケート案の説明ということで、事務局からお願いします。 アンケートの概要（資料4）、アンケート（案）（資料5）について説明。

(3) その他

3 閉会

会長  
委員  
委員  
会長

アンケート案について質疑等があればお願いします。

外出時の交通手段について、質問に加えたらどうか。

今年は国勢調査があるが、予備調査みたいな質問もある。

同じ調査の中で聞き、組み合わせて分析することによって、孤立しやすい人の特徴などが明らかになる。そういう意義があるとお考えいただきたい。交通手段に関する質問については、事務局にご検討いただき、細かい調整を含めて会長に一任させていただく。

高齢福祉  
課長

次回は11月10日(火)、午後6時半から予定している。開催通知と議事内容、資料は事前に送付する。

アンケートの中間報告は9月下旬頃、自宅に送付させていただく。

資料6は、前回の議事要旨(案)である。ご意見等あれば1週間以内にご連絡いただきたい。